

「令和4事業年度に係る業務の実績に関する報告書」  
の概要について〔地方独立行政法人法に基づく「法人評価」〕

## ○自己評価結果(案)の概要

大項目	項目数	自己評価結果(結果別の項目数)			
		IV	III	II	I
第1 教育に関する目標を達成するための措置 (報告書 P. 2~15)	71	6	65		
第2 研究に関する目標を達成するための措置 (報告書 P. 16~21)	30	4	26		
第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置 (報告書 P. 22~28)	40	2	38		
第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置 (報告書 P. 29~32)	18	4	13	1	
第5 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置 (報告書 P. 33~34)	10	1	7	2	
第6 自己点検評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置 (報告書 P. 35~36)	4	1	3		
第7 その他業務運営に関する目標を達成するための措置 (報告書 P. 37~41)	12	2	8	2	
合計 (うち再掲を除く)	185 (126)	20 (10)	160 (113)	5 (3)	

法人による自己評価基準	
数値目標を掲げる項目	制度、仕組みの整備、又は取り組みの進捗状況に関連する項目
IV ・計画を上回って実施している (達成度 110%以上)	・制度等を整備、運用し極めて順調に機能した ・期待以上の優れた成果を得た
III ・概ね計画どおりに実施している (達成度 80%以上 110%未満)	・制度等が十分に機能している ・期待する成果を得た
II ・計画をやや下回っている (達成度 50%以上 80%未満)	・制度等の整備や見直しが必要な段階である ・期待する成果を得られなかった
I ・計画を大幅に下回っている (達成度 50%未満)	・取組みが行われていない

## 【報告書(案)の主な内容】※特記事項より抜粋

## 【教育】

## ○昨年度の評価結果における「今後の課題」への対応&gt;

○志願者の増加に向けた大学の認知度向上を図る取組み等の強化  
高校の進路指導教員を対象とした大学説明会について、昨年度は新型コロナウイルスの影響により、1か所での開催であったが、令和4年度は感染対策に留意しつつ、北陸・東海地方や北陸新幹線沿線地域を中心に6か所で開催した。それに加え、学生募集等による高校訪問活動について、北陸・東海地方や関東地方に加え、コロナ禍が始まって以降、見送っていた関西地方においても再開し、県内外における認知度向上に努めた。

上記大学説明会や高校訪問、高校生・保護者・教員等を対象とした大学見学などの場において、工学部の学科再編・拡充、開設4年目を迎えた看護学部や令和5年4月に開設する看護系大学院及び専攻科、さらに情報工学部の設置構想等について丁寧に説明を行った。加えて、Web形式でのオープンキャンパスを開催し、コロナの影響等により対面型のオープンキャンパスへの参加が困難な受験生や遠方の受験生にもアプローチを図るとともに、受験情報誌やWebサイト等の各種媒体を活用した広告等の掲載や、「DX教育研究センター」の供用開始を踏まえて再編集した大学紹介映像の配信などにより、本学のさらなる認知度向上に取り組んだ。

その他、インターネットによる出願受付を実施するとともに、工学部では引き続き、一般選抜前期日程において名古屋、大宮に地方試験会場を設けるなど、受験生の利便性向上に取り組んだ。

## ○学生の県内就職定着に向けた取組みの強化

県内企業の人材ニーズ把握と採用を促進するため、就職戦線状況説明会や県内企業のための大学院生採用支援セミナーを実施した。また、低年次から企業訪問の充実強化、卒業生との意見交換会、キャリア支援セミナーの開催などを実施するとともに、本学OB・OGが活躍している県内企業の情報などを掲載した就職ハンドブックを作成した。さらに、県内企業に就職した県外出身卒業生の生活の安定に資するため、12件、687千円の住居費助成を行った。

本県地域医療に貢献することの魅力や、学生の県内医療機関等への就職に対する動機づけができるよう、県内各地の医療機関等で臨床実習を実施するとともに、県内医療機関等の説明会や若手看護職との交流会を実施した。

## ○デジタル化の進展に対応した人材の育成の強化

全学の1年生を対象に新設するデータサイエンスリテラシー科目の授業内容や教材の作成について、データサイエンス教育検討委員会にWGを設置し、検討を行った。

## ○高度な看護人材の育成・供給を図るため大学院と保健師・助産師を養成する専攻科の設置

看護職者としての倫理観と広い視野を持ち、高度な看護実践能力を備え、看護の課題を科学的に探究し、地域や社会の発展に寄与できる人材の育成に取り組む大学院の体制整備を、令和5年4月の開講に向けて準備を進めた。また、科学技術の素養に富み人間性を兼ね備え、創造力と実践力を兼ね備えた、富山県の保健・医療・福祉に貢献できる保健師、助産師の育成に取り組む専攻科の体制整備も、同様に進めた。

## 【研究】

## ○工学と看護学の融合による特色ある研究の推進

工学部と看護学部の教員による共同研究に取り組み、この中には、科学研究費補助金の獲得につながるものもあった。また、両学部の教員間に加え企業も加えた共同研究を行い、地域企業との連携にも繋げた。

## ○デジタル化の進展等に応える教育研究組織の見直し

デジタル社会を担う人材育成が喫緊の社会的課題とされる中、本学としてそのニーズに迅速に応えるべく、知能ロボット工学科及び情報システム工学科を発展的に改組するとともに、新たにデータサイエンス学科を加えた3学科からなる「情報工学部」を令和6年4月に開設することとし、準備を進めた。情報工学部では、「情報」を軸とする工学の専門知識とデータサイエンスの専門知識を兼ね備えた人材の育成や、社会の潜在的課題を見極め、解決策を見出す能力を持った人材の育成を目指すこととしている。

## 【地域貢献】

## ○企業人材育成支援の充実

受講者や企業の意見を踏まえてブラッシュアップを行ったレディメイド型講座に加え、令和4年度から個々の企業のニーズに応じたカスタムメイド型講座及びDX教育研究センター主催のDXに関するスキルや思考を学ぶ講座を開催した。これらの講座には、県内企業等から120名を超える受講者があったほか、カスタムメイド型講座には、3企業から申込みがあり実施し好評を得た。

## ○地域課題解決への貢献

10名程度の少人数セミナーを中心に、71件の授業等で地域との対話・交流・協働を行う地域協働授業を実施するとともに、教員が行う地域志向研究や学生自主プロジェクト等でも、地域の自治体、企業、NPO等と協働して課題を発見し、解決に向けた取組みを推進した。

## 【業務運営の改善及び効率化】

## ○機動性の高い業務運営の構築

令和5年4月の看護系大学院及び専攻科の設置、令和6年4月の情報工学部の設置に向け、副学長の複数設置、本学の情報分野を統括する新たな組織を設置し大学組織の強化を図った。

## 【財務内容の改善】

## ○科学技術研究費の更なる獲得

開学以来、地域貢献・社会貢献を使命とし、平成16年4月に開設した「地域連携センター」を拠点に国内外の企業・機関との共同研究を活発に展開し、科学研究費も堅調に増加している。令和4年度も、引き続き、各学科の多くの教員が積極的に科学研究費補助金などの競争的研究資金の申請に努めた。地域連携センターにおいて、企業との受託研究、研究費受入等を支援し、受託研究は36件(昨年度33件)、共同研究は89件(同87件)、奨学寄附金103件(同95件)となり、ここ数年の高位件数を引き続き維持している。

## 【自己点検評価及び情報提供】

## ○法人評価及び大学機関別認証評価への対応

3回目の受審(令和5年度)となる大学機関別認証評価受審へ向けて、前回受審の結果や毎年度のPDCAの内容を確認しながら、全学で連携して自己評価書の作成に取り組んだ。

## 【その他の業務運営】

## ○専門業務型裁量労働制の導入

教員の弾力的な働き方を推進するため、業務の遂行手段及び時間配分などを教員の裁量に委ねることができる「専門業務型裁量労働制」を令和5年4月より導入するため、学内合意形成を図り、諸規程の改正や労使協定の締結など導入に向けた準備を進めた。

【概算説明資料1】「令和4事業年度に係る業務の実績に関する報告書」より(※自己評価結果「IV」(本掲のみ)抜粋)

第2期中期計画	R4年度計画	計画の進捗状況等	自己評価
<b>第1 教育に関する目標を達成するための措置</b>			
<b>2 教育の内容に関する目標を達成するための措置</b>			
<b>(2) 特色ある教育の推進</b>			
<b>エ キャリア教育の推進</b> ・学生のキャリア形成につながる実践的かつ体系的なプログラムを、入学から卒業まで一貫して実施する。	・工学部では、進路ガイダンスや企業を知る木曜日(シルモク)、学内合同企業研究会、個別の就職指導等の充実に取り組み、県内関係機関で開催される各種就職ガイダンス等への学生の積極的な参加を促す。 看護学部では、トピックゼミや県内の様々な医療機関等での実習により、職業的アイデンティティの確立を目指すほか、県内医療機関等説明会や若手看護師等との交流会等の開催や、就職試験・面接対策等の取組みを実施する。	・工学部では、進路ガイダンス(6回開催)、企業を知る木曜日(シルモク)(30社1052名)、学内合同企業研究会(257社)、個別の就職指導を通して、継続的なキャリア形成を強化した。 ・看護学部では、トピックゼミや県内の様々な医療機関等での実習に加え、キャリア形成に関するオリエンテーションを実施し、職業的アイデンティティの確立に至るための支援をより充実させた。県内医療機関等説明会(4回開催)、各種セミナー(5回開催)、就職・進学のための個別支援を実施した。	IV
<b>3 教育の実施体制に関する目標を達成するための措置</b>			
<b>(2) 教育環境の整備・充実</b>			
<b>ア 魅力ある教育施設の整備</b> ・教育施設の整備に際し、デジタル化の進展にも対応するなど、魅力あるキャンパスの整備に努める。  ・デジタル化の進展に対応した産学官金の連携教育研究拠点となるDX教育研究センター(仮称)を整備する。	・「地域の知の拠点」としての役割を發揮できるよう、オープンラボを拠点とし、産学連携を推進する。 また、射水キャンパスにおいて、学生会館の談話コーナーやホール、太閤池周辺の開かれた環境づくり等により女子学生を含む学生交流の活性化を図るなど、看護学部開設に伴う教育研究環境の整備に加え、令和4年4月に供用開始したDX教育研究センターを拠点に、デジタル化の進展に対応した産学官金の連携教育研究を推進する。	・射水キャンパス西側の旧環境工学科棟等の跡地を整備し、西側県道から中央棟へのアクセスの改善を図るとともに、学生・教職員の憩いの場となる緑地や駐車場・駐輪場等を設置した。 ・DX教育研究センターにコワーキングスペース等を設け、産学官金が連携した教育研究やオープンイノベーションを推進する環境を整備した。 ・DX教育研究センターにおいて、その研究内容等を紹介するオープンハウスや企業ニーズを踏まえた勉強会やワークショップ等を開催し、産学官連携の拠点としての活動に取り組んだ。その結果、センターの事業趣旨に賛同するアソシエイト会員制度には、開設初年度のみで351人(205社)の登録を得た。 ・情報工学部開設に伴う収容定員増やデジタル・グリーン等の成長分野にかかる産学官金連携による教育研究の推進等に対応するため、新校舎の基本設計を実施した。	IV
<b>3 教育の実施体制に関する目標を達成するための措置</b>			
<b>(4) 専門看護師など高度な看護人材等の育成</b>			
<b>ア 看護系大学院の設置</b> ・看護系大学院を設置し、医療機関等の求める質の高い看護職員の育成、将来の富山県の看護学研究・教育を担う人材の育成に努める。	・設置認可申請手続きを行い、認可後速やかに、学生募集・入試・学生受入を実施できるよう、教育課程、諸規程等及び運営体制の整備や、研究棟を大学院教育を行う施設へ改修する工事の実施など、令和5年4月の大学院看護学研究科の開設に向けた準備を進める。	・大学院看護学研究科設置認可申請書を提出し、審査意見を踏まえ補正申請書を提出した。R4.8.31付けで設置認可を受けた。 ・研究棟改修工事がR5.1月に完工し、設備・備品を設置した。 ・R4.9月に学生募集を開始、同月に学内推薦入試、11月に一般・社会人選抜入試を実施し、13名の大学院生を迎え入れることとなった。 ・看護職者としての倫理観と広い視野を持ち、高度な看護実践能力を備え、看護の課題を科学的に探究し、地域や社会の発展に寄与できる人材の育成に取り組む大学院の体制整備を、令和5年4月の開講に向けて準備を進めた。	IV
<b>イ 専攻科の設置</b> ・専攻科を設置し、富山県立総合衛生学院が担ってきた保健師・助産師の養成機能を継承する。	・保健師助産師学校指定申請手続きを行い、指定後速やかに、学生募集・入試・学生受入を実施できるよう、教育課程、諸規程等及び運営体制の整備や、研究棟を保健師・助産師の養成を行う施設へ改修する工事の実施など、令和5年4月の看護学専攻科(公衆衛生看護学専攻、助産学専攻)の開設に向けた準備を進める。	・保健師助産師学校指定申請書を提出し、疑義照会を踏まえ申請書を修正した。R4.8.31付けで学校指定を受けた。 ・研究棟改修工事がR5.1月に完工し、設備・備品を設置した。 ・R4.9月に学生募集を開始、同月に学内推薦入試、10月に一般・社会人選抜入試を実施し、公衆衛生看護学専攻15名、助産学専攻10名の専攻科生を迎え入れることとなった。 ・科学技術の兼養に富み人間性豊かで、創造力と実践力を兼ね備えた、富山県の保健・医療・福祉に貢献できる保健師、助産師の育成に取り組む専攻科の体制整備を、令和5年4月の開講に向けて準備を進めた。	IV

<b>4 学生への支援に関する目標を達成するための措置</b>			
<b>(3) キャリア形成支援</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>看護学部において、県内医療機関等と連携した臨地実習を実施するとともに、富山キャンパスに設置するキャリアセンターサテライトでの就職支援の取組みにより、学生の県内定着を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護学部において、県内の様々な医療機関等で臨地実習を実施するなかで、本県の地域医療に貢献することの魅力を伝え、学生の県内医療機関等への就職に対する動機づけを高めるとともに、富山キャンパスに設置したキャリアセンターサテライトにおける情報提供により、県内医療機関等への就職に向けた支援を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護学部では、県内各地の医療機関等で臨地実習を実施したほか、昨年度の実施内容の見直し・改善を行いながら学内でも医療機関等説明会や若手看護職との交流会等を開催した。昨年度よりも参加者数が増加した事業もあり、より多くの学生に対して県内医療機関や本県地域医療の魅力を伝えた。その結果、第一期卒業生の県内就職率は62.8%となった。</li> </ul>	IV

第2期中期計画	R4年度計画	計画の進捗状況等	自己評価
<b>第2 研究に関する目標を達成するための措置</b>			
<b>1 研究の方向性と研究の成果に関する目標を達成するための措置</b>			
<b>(1) 産業、保健及び医療の発展に貢献する研究の推進</b>			
<b>イ 競争的外部資金の獲得の促進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究競争力を高めるため、科学研究費補助金などの競争的研究資金の獲得の促進に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学研究費補助金などの競争的研究資金のさらなる獲得に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学研究費補助金の採択件数は学内全体で131件と本計画期間を通じ最多となった。</li> <li>環境・社会基盤工学科では、科研費は資格のある教員は全員申請した。</li> <li>医薬品工学科では、新規応募に対し3件(基盤B×1, 基盤C×1, 研スタ×1)の採択があった。また、継続課題は4件(学変A×1, 基盤B×1, 基盤C×2)であった。</li> <li>看護学部看護学科では、科学研究費補助金を新たに5件獲得し、採択件数は49件であった。</li> </ul>	IV
<b>2 研究実施体制に関する目標を達成するための措置</b>			
<b>(1) 研究実施体制の充実</b>			
<b>ア 教育研究組織の見直し</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル化の進展や産業界等のニーズ等に応え、県内企業への人材供給を一層促進するとともに、研究開発の拠点として地域に貢献するため、必要に応じて教育研究組織の見直しを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル化の進展や県内産業を支える人材の供給と若者の定着に一層貢献するため、知能ロボット工学科及び情報システム工学科の入学定員を拡充するとともに、DX教育研究センターを拠点とし、産業界と連携した人材育成の教育や研究を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度の知能ロボット工学科及び情報システム工学科の入学定員拡充に加え、更なる人材育成のためにデータサイエンス教育も行う情報工学科を開設すべく文部科学省等と調整を行い、令和6年4月開設へ向けて準備を進めた。</li> </ul>	IV

第2期中期計画	R4年度計画	計画の進捗状況等	自己評価
<b>第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置</b>			
<b>3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置</b>			
<b>(1) 柔軟で多様な人事制度の構築</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>研究力の一層の向上を図るため、専門業務型裁量労働制の導入を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の研究力向上や働き方改革に資するため、専門業務型裁量労働制の導入を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門業務型裁量労働制を令和5年度から導入するため、社会保険労務士を講師とするSD研修会、学科ごとの学内個別説明会(5回)、先進地調査(2大学)、入試手当協議(6回)など学内合意形成を図り、諸規程の改正や労使協定の締結(射水C、富山C)など導入に向けて準備を進めた。</li> </ul>	IV

第2期中期計画	R4年度計画	計画の進捗状況等	自己評価
<b>第6 自己点検評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置</b>			
<b>2 情報発信の推進に関する目標を達成するための措置</b>			
<b>(2) 積極的な広報の推進</b>			
<p>・教育、研究、地域貢献活動や業務運営に関する情報を戦略的かつ効果的に公開・提供できるよう広報体制を強化し、大学のホームページをはじめとした多様な媒体を活用して、積極的な情報発信を行う。</p>	<p>・教育研究活動、地域貢献などについて、積極的に情報発信することにより本学の認知度の向上を図る。また、従来主としてきた広報手段であるポスター・パンフレットに加え、戦略的広報手段としてWEB、SNSなど多様なICTメディア活用を進め、その一環として、バナー広告の掲出やYouTube広告の配信などを実施する。</p>	<p>・大学案内パンフレットや保護者向けパンフレット等の広報ツールの作成・配布に加え、電車の中吊り広告やシティスケープ広告の掲出などの広報活動を実施した。また、WEB広告としては、学生募集向けのPR動画と大学のブランディングを目的とした動画を制作し、令和4年12月からYouTube広告として発信した。WEB広告動画再生数は令和5年3月末で17万回を超えて、バンパー広告動画を含めると282万7千回を越え、大学名の露出が増加し、大学の認知度向上に大きく貢献した。</p>	IV

第2期中期計画	R4年度計画	計画の進捗状況等	自己評価
<b>第7 その他業務運営に関する目標を達成するための措置</b>			
<b>2 安全管理等に関する目標を達成するための措置</b>			
<b>(2) 情報セキュリティ体制の整備</b>			
<p>・学内の情報セキュリティ体制の強化と個人情報を含めた情報資産の取扱いの見直しなど情報管理の適正化を図るとともに、情報システム利用に関する研修会を実施するなど、教職員と学生の情報リテラシーの向上を図る。</p>	<p>・情報資産の取り扱いを含め、リモートワークに対応した情報セキュリティ体制の整備を実施することでセキュリティ体制を強化し、その運用を着実に実施する。また、情報システム利用者に対し、引き続きセキュリティ順守意識高揚の機会を提供する。</p> <p>・特定個人情報等について、本学の安全管理基本方針等に基づき、安全管理措置を講ずるとともに、その適正な収集・保管・利用等を図る。</p>	<p>・情報セキュリティ対策基準を2要素認証用の端末における取り扱いを含めたものに改正し、情報資産の扱いの整備をした。また、セキュリティ体制を強化するため、リモートワーク環境でのセキュリティ順守意識高揚に向けた研修を実施(R4.11)した。また、情報セキュリティ監査を実施した結果概ね良好な状態であることが確認された。</p> <p>・特定個人情報等について、内部監査を実施したほか、本学の安全管理基本方針等に基づき、安全管理措置を講ずるとともに、その適正な収集・保管・利用等を図った。</p> <p>・情報基盤管理や情報化推進、情報利活用の促進を図るため、組織体制を見直し、情報化統括責任者(CIO)の設置、全学を通して情報分野を統括する情報戦略本部及びその下部組織(情報環境整備委員会、情報化推進委員会、情報セキュリティ対策委員会)を新たに設け、令和5年4月より体制の強化を行った。</p>	IV

【概算説明資料1】「令和4事業年度に係る業務の実績に関する報告書」より(※自己評価結果「Ⅱ」(本掲のみ)抜粋)

第2期中期計画	R4年度計画	計画の進捗状況等	自己評価
<b>第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置</b>			
<b>4 事務の効率化に関する目標を達成するための措置</b>			
<b>(2) 事務処理の効率化</b>			
・リモートワークや業務全体におけるデジタル化を推進し、事務処理の効率化を図る。	・財務会計システム、人事給与システムを適切に運用し、事務処理の合理化を図る。	・財務会計システム、人事給与システムを適切に運用し、事務処理の合理化に努めたが、令和4年度決算の利益剰余金はマイナス(△23百万円)を計上した。	Ⅱ

第2期中期計画	R4年度計画	計画の進捗状況等	自己評価
<b>第5 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置</b>			
<b>2 予算の効率的な執行に関する目標を達成するための措置</b>			
・省エネルギーのための設備を導入し、光熱水費の削減を図る。	・省エネルギー設備の導入など環境マネジメント活動による、省エネルギー、省資源化を促進するとともに、光熱水費の使用状況を把握・分析し、学内で公表・周知するなど、教職員のコスト意識を高める。	・環境マネジメント活動による、省エネルギー、省資源化を促進した。また、効率的な空調機器の導入を進めた。 ・教育研究審議会において、光熱水費の使用状況を公表し、教職員のコスト意識を高めるよう努めたが、射水キャンパスの電気・都市ガス使用量は前年度を上回り、光熱水費は前年度より約6千万円増加した。	Ⅱ
・全学的に光熱水費の使用状況を把握・分析し、学内で公表するなど、教職員のコスト意識を高める。			

第2期中期計画	R4年度計画	計画の進捗状況等	自己評価
<b>第7 その他業務運営に関する目標を達成するための措置</b>			
<b>2 安全管理等に関する目標を達成するための措置</b>			
<b>(1) 安全衛生管理</b>			
・労働安全衛生法に基づき、薬品、化学物質等の適正管理など、全学的な安全管理体制を整備し、学生及び教職員の安全確保と健康保全に努める。	・労働安全衛生法及び関係法令に基づき、薬品、化学物質等の適正管理を行う。また、令和4年度中に薬品管理システムの導入を行う。 ・老朽化施設の安全点検・確認に努めるほか、キャンパス内の広範囲で外構工事を行う中で学生及び教員の安全確保に最大限努める。	・労働安全衛生法及び関係法令に基づき、薬品、化学物質等の適正管理を行った。また、薬品管理システムの仕様を決定した。(令和5年度導入予定) ・新型コロナウイルスの学内感染拡大を防止するため、民間医療機関、県看護協会、産業医、学校医、本学教職員の協力を得ながら職域接種を実施した。(3回目:689人)	Ⅱ

【概要説明資料2】昨年度の評価結果における「今後の課題」への対応状況について

【課題その1】 志願者の増加に向けた大学の認知度向上を図る取組み等の強化

《令和4年度の対応状況等(「令和4事業年度に係る業務の実績に関する報告書」より抜粋)》

第2期中期計画	R4年度計画	計画の進捗状況等	自己評価
第1. 教育に関する目標を達成するための措置			
1 学生の確保に関する目標を達成するための措置			
イ 学生確保に向けた戦略の展開 【学士課程】	・県立の大学として、県内の産業、保健及び医療を支える人材の供給と若者の定着に一層貢献するため、WEB広告の配信や公式SNSの活用など、積極的かつ戦略的な情報発信を行い、大学のさらなる認知度向上を図る。	・県外での大学説明会や学生募集参与による県内外の高校への訪問活動、高校からの大学見学などの場において、工学部の学科再編・拡充やDX教育研究センターの設置、開設4年目を迎えた看護学部や令和5年4月に開設する看護系大学院及び専攻科、情報工学部の設置構想等について丁寧に説明を行った。 ・受験情報誌やWebサイト等の各種媒体を活用した広告等の掲載や大学紹介動画の配信により、大学のさらなる認知度向上に取り組んだ。	III
・18歳人口のさらなる減少を見据え、大学認知度をより一層向上させ、引き続き県外からの志願者の増加を図る。	・工学部一般選抜(前期日程)の地方試験会場設置地域(名古屋、大宮)や延伸予定の福井を含めた北陸新幹線沿線地域(上越、金沢、福井等)での大学説明会の開催、工学部中央棟の供用開始にあわせてリニューアルした大学紹介映像をDX教育研究センター供用開始等を踏まえて再更新、WEBオープンキャンパスをはじめとした様々なメディアを活用した広報、学生募集参与による高校や予備校への訪問など、県外における学生募集広報をより一層充実強化する。また、工学部一般選抜(前期日程)での地方試験会場の設置(名古屋、大宮)もPRしながら、引き続き県外からの志願者の増加に取り組む。	・高校の進路指導教員を対象とした大学説明会について、R3年度は新型コロナの影響により、1か所での開催であったが、R4年度は感染対策に留意しつつ、東海北陸地域や北陸新幹線沿線地域を中心に6か所で開催した。 ・上記に加え、学生募集参与による高校訪問活動について、北陸・東海地方や関東地方に加え、コロナ禍が始まって以降、見送っていた関西地方においても再開し、県外における認知度向上に努めた。 ・特に本学への志願者が多い愛知県の高校への訪問時には、学長が同行し、本学の教育内容等をアピールするとともに、高校長等と意見交換を行った。 ・受験情報誌やWebサイトを活用した広告発信を一層強化するとともに、「DX教育研究センター」の供用開始を踏まえて更新した大学紹介動画の配信やWebを活用したオープンキャンパスを実施し、本学の教育・研究分野に関心のある層に対しPRを行った。 ・工学部では、一般選抜(前期日程)において、志願者の利便性向上及び負担軽減のため、名古屋、大宮に地方試験会場を設け、志願者の増加を図った。	III
・県内高校の生徒や保護者向けの学生募集広報活動をより一層充実させ、引き続き優秀な県内入学者の確保を図る。	・優秀な県内入学者の確保のため、引き続き、県内高校推薦枠・特待生制度を推進するとともに、教員による県内高校を中心としたサテライトキャンパス(出張講義、学科紹介)、学長や学生募集参与による県内高校訪問、大学見学の受入れに加え、工学部中央棟の供用開始にあわせてリニューアルした大学紹介映像をDX教育研究センター供用開始等を踏まえて再更新するとともに、対面式及びWEBを活用したオープンキャンパスを併用して実施するなど、県内高校生や保護者向けの学生募集広報活動をより一層充実強化する。	・学生募集参与による県内高校への訪問活動や大学見学等において、県内高校出身者に対する学校推薦型選抜の県内枠や特待生制度について積極的にPRした。 ・サテライトキャンパス:36校66講座(延べ)、大学・学科紹介講座:5校8講座(延べ) ・大学見学:16校(延べ) ・大学紹介動画を「DX教育研究センター」の供用開始等を踏まえて、本学の先進的な施設・設備をPRするものに更新した。 ・6、7月に対面型オープンキャンパスを開催するとともに、Webを活用したオープンキャンパスを実施した。なお、Webオープンキャンパスは、昨年度までは8、9月に期間を限定して実施していたが、本学に興味を持った受験者、保護者等に広く閲覧してもらうため、今年度は期間を8月から翌年3月まで延長して実施した。(参加人数:984人(対面型)、177人(Web))	III
・工学部において、優秀な女子学生を確保するため、引き続き学生募集広報活動における女子生徒の興味・関心の喚起・向上に向けた取組みを推進する。	・工学部において、優秀な女子学生を確保するため、高校生向け特設サイトでのリケジョのインタビューの発信、大学案内パンフレットへの女子在学生のインタビューの掲載、大学紹介映像の卒業生インタビューへの女性の起用など、引き続き、女子生徒の関心の喚起を行う。	・高校生向け特設サイト及び大学案内パンフレットでの女子在学生のインタビューの発信や、卒業生インタビューに女性を起用した大学紹介動画の配信を行うとともに、大学説明会等において入学生における女子比率の向上や、女性用トイレやパウダールームの整備などによる女性が通いやすい環境をPRするなど、女子生徒の興味・関心の向上に取り組んだ。	III
・インターネット出願について、志願者の利便性を向上させ、優秀な学生の確保に資するため、早期に導入する。	・令和4年度入学者選抜から導入したインターネットを利用した出願システムを引き続き運用し、志願者の利便性向上、優秀な学生の確保に取り組む。	・令和4年度入学者選抜から運用を開始したインターネット出願システムについて、導入初年度の実績を踏まえ、必要に応じて入力上の留意点を追記するなど、志願者が不備なく円滑に出願できるよう改善を行った。	III

【課題その2】 学生の県内就職定着に向けた取組みの強化

≪令和4年度の対応状況等(「令和4事業年度に係る業務の実績に関する報告書」より抜粋)≫

第2期中期計画	R4年度計画	計画の進捗状況等	自己評価
第1 教育に関する目標を達成するための措置			
2 教育の内容に関する目標を達成するための措置			
(2) 特色ある教育の推進			
<p>エ キャリア教育の推進</p> <p>・学生のキャリア形成につながる実践的かつ体系的なプログラムを、入学から卒業まで一貫して実施する。</p>	<p>・工学部では、進路ガイダンスや企業を知る木曜日(シルモク)、学内合同企業研究会、個別の就職指導等の充実に取り組み、県内関係機関で開催される各種就職ガイダンス等への学生の積極的な参加を促す。</p> <p>看護学部では、トピックゼミや県内の様々な医療機関等での実習により、職業的アイデンティティの確立を目指すほか、県内医療機関等説明会や若手看護師等との交流会等の開催や、就職試験・面接対策等の取組みを実施する。</p>	<p>・工学部では、進路ガイダンス(6回開催)、企業を知る木曜日(シルモク)(30社1052名)、学内合同企業研究会(257社)、個別の就職指導を通して、継続的なキャリア形成を強化した。</p> <p>・看護学部では、トピックゼミや県内の様々な医療機関等での実習に加え、キャリア形成に関するオリエンテーションを実施し、職業的アイデンティティの確立に至るための支援をより充実させた。県内医療機関等説明会(4回開催)、各種セミナー(5回開催)、就職・進学のための個別支援を実施した。</p>	IV
<p>・学生の自立心や社会性を涵養し、実践力や就業力を育成するため、キャリア教育の内容の充実と同時に、企業、保健医療福祉施設(以下「医療機関等」という。)、専門機関などとの連携を促進する。</p>	<p>・卒業生の県内就職定着を促進するため、工学部では、県内企業への就職活動を支援する専任の県内就職定着促進員をキャリアセンターに引き続き配置し、企業の人材ニーズ把握や採用を促進するための県内企業の訪問を実施するほか、看護学部では、キャリアセンターサテライトにおいて県内医療機関等や県看護協会と連携しながら、就職情報等の提供を行う。</p>	<p>・工学部では、県内企業への就職活動を支援する専任の県内就職定着促進員をキャリアセンターに引き続き配置し、企業の人材ニーズ把握等を行った。</p> <p>・看護学部では、県内医療機関・県看護協会・ハローワーク富山と連携し、就職活動に役立つ各種セミナーや説明会等を実施した。また、県訪問看護ステーション連絡協議会が主催するインターンシップに関して、協議会と共同で参加募集や一部の運営を実施したところ、受入定員4名を大幅に越えた14名からの申込みがあり、協議会側で日程を追加してインターンシップを実施いただいた。</p>	III
	<p>・県内のものづくり技術や県内企業等の理解促進等を図るため、県内企業の経営者や技術者等を外部講師として、富山のものづくり産業に関連する講座等を開講する。</p>	<p>・機械システム工学部・専攻では、複数の講義において、講義科目の内容と関連の深い県内企業で活躍する技術者・卒業生から講演いただいた。また、学部生(1~4年次生)とM1生を対象に、22社に及ぶ県内企業見学会を企画・実施し、機械関連のものづくりの現場・職場の雰囲気や体感と企業の技術者との交流を通して、講義で学習した専門分野の知識・技術が現場で活用されていることの学びの場を提供するとともに多くの県内企業の知名度の向上や理解を深めた。</p> <p>・知能ロボット工学部では、県内外のものづくり、電気電子、情報分野の経営者や技術者を外部講師として招いて行う「企業経営概論」を開講した。また「特別講義2」(15回)を開講し、機電工業会の協力を得て県内企業から若手技術者を招聘して講義を実施するとともに、企業見学会を5回、講師とのグループ討論会を2回実施した。</p> <p>・電気電子工学部と情報システム工学部では、学科の専門分野に関連の深い県内外企業から講師を招いて行う「企業経営概論」や、県内外の経営者や技術者を外部講師として招いて行う「電子・情報工学特別講義」を共同で開講した。</p> <p>・環境・社会基盤工学部では、県内外の経営者や技術者を外部講師として招いて行う「企業経営概論」を開講し、学生への企業の業務内容、事業展開の意義等の理解に努めた。また、3年生・M1を対象に県内外業界研究ワークショップ・県内企業懇談会(計25回)を開催し、環境・建設系企業との相互理解を促進した。</p> <p>・生物工学部では、学科での教育・研究内容と関連の深い県内企業の事業および技術理解を目的とし、県内企業2社(製薬、化学、遺伝子工学、醸造)の協力のもと、大学への出張講義・実習を企画・実施し、学生自身のキャリア形成に対する意識の醸成を図った。</p> <p>・医薬品工学部では、学科の専門分野と関連する県内外企業を対象として以下の取り組みを行った。①学部2年次生を対象に、県内の製薬関連企業2社の見学を行った。②学部2年次生および3年次生を対象とし、県内企業2社から講師を招いて講演会を行った。</p>	III

	・看護学部では、県内の様々な医療機関等において実施する臨床実習を通して、学生が本県の保健医療福祉の課題について考え、看護専門職としての自己のあり方を省察し、今後の看護キャリアを考える機会とする。また、臨床実習では、実習先の医療機関等において臨床教授等の称号を付与し、指導体制のさらなる充実を図る。	・県内医療機関等との連携により、県内各地の数多くの医療現場等での臨床実習を着実に実施するとともに、臨床教授制度を活用し、各医療機関等での指導体制の強化を図った。 ・臨床実習運営協議会を開催し、実習課題の改善に取り組んだ。	Ⅲ
・短期留学などの体験を効果的に活用した教育プログラムを提供する。【再掲】(第1-2-(1)-エ)	・瀋陽化工大学(中国)と単位互換に基づく学生の交換留学を実施する。また、英語圏語学研修について単位付与を行う。【再掲】(第1-2-(1)) ※同一項目内で重複再掲 年度計画には記載しない。	・瀋陽化工大学(中国)と単位互換に基づく学生の交換留学、ポードランド州立大学(PSU)語学研修については、新型コロナウイルス感染症の影響により実施されなかった。	Ⅲ
・在学中に自らの専攻や希望する職種に関連した就業体験ができるよう、インターンシップの質的充実を図る。	・学生に、より多くの企業に関心を持ってもらうため、インターンシップ受入企業説明会を実施する。また、学生のインターンシップへの参加意欲を高めるため、先輩のインターンシップ体験を聞くセミナーを開催する。	・新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮し、オンラインでインターンシップ受入企業説明会及び教えて先輩！インターンシップ知トクセミナーを開催した。	Ⅲ
・学生のキャリア形成支援を行うキャリアセンターの取組みを強化する。	・県内就職の促進のため、工学部では、低年次からの県内企業への訪問や、県内企業に勤めるOBと学生との意見交換会の開催、就職ハンドブックの作成など、学生、保護者へ富山や富山の企業の魅力を発信する。 看護学部では、「『富山で働く意義』や『自身のキャリア』を考える機会」を創出し、就職先選択の一要因である「『同期』の重要性」の素地を整えることができるよう、「県内の若手看護職等との交流会」や「県内医療機関等説明会」、「県外出身学生と県内出身学生との交流の場」を設ける」などの事業を実施する。	・工学部では、低年次からの企業訪問の充実強化(25社1施設、9ゼミ)とともに、卒業生との意見交換会(卒業生8名、学生356名)、キャリア支援セミナー(申込者88名)の開催などを通して、県内就職の促進に努めた。 ・看護学部では、県内外生が交流しながらキャリア形成を学ぶワークや、県内の若手看護職との交流会、本県における看護職の就業状況や行政等の支援策の紹介等を行い、県内定着への動機づけを高めるとともにキャリア形成支援を実施した。	Ⅲ
オ 大学コンソーシアムを活用した教育の提供 ・大学コンソーシアム富山に参加し、県内の高等教育機関と連携した多様な教育活動を実施する。	・県内企業に就職した県外出身卒業生に対して、生活の安定を図るため、住居費の助成に取り組む。 ・大学コンソーシアム富山が実施する県内企業への合同企業訪問などに参画する。	・県内企業に就職した県外出身卒業生の生活の安定に資するため、12件、687千円の住居費助成を行った。 ・大学コンソーシアム富山が実施する県内企業への合同企業訪問に、本学スタッフ(3名)および学生(4名)が積極的に参加するとともに、県内企業訪問の在り方について検討した。	Ⅲ

### 【課題その3】 デジタル化の進展に対応した人材の育成、施設・設備の充実

《令和4年度の対応状況等(「令和4事業年度に係る業務の実績に関する報告書」より抜粋)》

第2期中期計画	R4年度計画	計画の進捗状況等	自己評価
第1 教育に関する目標を達成するための措置			
2 教育の内容に関する目標を達成するための措置			
(1) 教育内容の充実			
・デジタル化の進展に応じた人材の育成に向けたカリキュラムの充実を図る。	・デジタル化の進展に対応し、数理・データサイエンス・AIの基礎的な素養を身に付け、数理・データサイエンス・AIを各専門分野で応用できる人材を育成するためのカリキュラムの検討を行う。	・教務委員会にカリキュラム検討部会を設置し、データサイエンス教育の導入を含めたカリキュラムの見直しについて検討した。 ・令和6年度から全学科必修科目として新設するデータサイエンスリテラシー科目の内容について、データサイエンス教育検討委員会の下部組織としてWGを設置し、検討を行った。	Ⅲ
3 教育の実施体制に関する目標を達成するための措置			
(2) 教育環境の整備・充実			
ア 魅力ある教育施設の整備 ・教育施設の整備に際し、デジタル化の進展にも対応するなど、魅力あるキャンパスの整備に努める。  ・デジタル化の進展に対応した産学官金の連携教育研究拠点となるDX教育研究センター(仮称)を整備する。	・「地域の知の拠点」としての役割を発揮できるよう、オープンラボを拠点とし、産学連携を推進する。 また、射水キャンパスにおいて、学生会館の談話コーナーやホール、太閤池周辺の開かれた環境づくり等により女子学生を含む学生交流の活性化を図るなど、看護学部開設に伴う教育研究環境の整備に加え、令和4年4月に供用開始したDX教育研究センターを拠点に、デジタル化の進展に対応した産学官金の連携教育研究を推進する。	・射水キャンパス西側の旧環境工学科棟等の跡地を整備し、西側県道から中央棟へのアクセスの改善を図るとともに、学生・教職員の憩いの場となる緑地や駐車場・駐輪場等を設置した。 ・DX教育研究センターにコワーキングスペース等を整備し、産学官金が連携した教育研究やオープンイノベーションを推進する環境づくりに努めるとともに、各種事業を展開し多くの参加を得た。 ・情報工学部開設に伴う収容定員増やデジタル・グリーン等の成長分野にかかる産学官金連携による教育研究の推進等に対応するため、新校舎の基本設計を実施した。	Ⅳ



**【課題その4】 高度な看護人材の育成・供給を図るため大学院と保健師・助産師を養成する専攻科の設置に向けた準備**

《令和4年度の対応状況等(「令和4事業年度に係る業務の実績に関する報告書」より抜粋)》

第2期中期計画	R4年度計画	計画の進捗状況等	自己評価
第1 教育に関する目標を達成するための措置			
3 教育の実施体制に関する目標を達成するための措置			
(4) 専門看護師など高度な看護人材等の育成			
<p><b>ア 看護系大学院の設置</b>                      ・看護系大学院を設置し、医療機関等の求める質の高い看護職員の育成、将来の富山県の看護学研究・教育を担う人材の育成に努める。</p>	<p>・設置認可申請手続きを行い、認可後速やかに、学生募集・入試・学生受入を実施できるよう、教育課程、諸規程等及び運営体制の整備や、研究棟を大学院教育を行う施設へ改修する工事の実施など、令和5年4月の大学院看護学研究科の開設に向けた準備を進める。</p>	<p>・大学院看護学研究科設置認可申請書を提出し、審査意見を踏まえ補正申請書を提出した。R4.8.31付けで設置認可を受けた。                      ・研究棟改修工事がR5.1月に完工し、設備・備品を設置した。                      ・R4.9月に学生募集を開始、同月に学内推薦入試、11月に一般・社会人選抜入試を実施し、13名の大学院生を迎え入れることとなった。                      ・R5.4月開講。看護職者としての倫理観と広い視野を持ち、高度な看護実践能力を備え、看護の課題を科学的に探究し、地域や社会の発展に寄与できる人材の育成に取り組む体制が整った。</p>	IV
<p><b>イ 専攻科の設置</b>                      ・専攻科を設置し、富山県立総合衛生学院が担ってきた保健師・助産師の養成機能を継承する。</p>	<p>・保健師助産師学校指定申請手続きを行い、指定後速やかに、学生募集・入試・学生受入を実施できるよう、教育課程、諸規程等及び運営体制の整備や、研究棟を保健師・助産師の養成を行う施設へ改修する工事の実施など、令和5年4月の看護学専攻科(公衆衛生看護学専攻、助産学専攻)の開設に向けた準備を進める。</p>	<p>・保健師助産師学校指定申請書を提出し、疑義照会を踏まえ申請書を修正した。R4.8.31付けで学校指定を受けた。                      ・研究棟改修工事がR5.1月に完工し、設備・備品を設置した。                      ・R4.9月に学生募集を開始、同月に学内推薦入試、10月に一般・社会人選抜入試を実施し、公衆衛生看護学専攻15名、助産学専攻10名の専攻科生を迎え入れることとなった。                      ・R5.4月開講。科学技術の素養に富み人間性豊かで、創造力と実践力を兼ね備えた、富山県の保健・医療・福祉に貢献できる保健師、助産師の育成に取り組む体制が整った。</p>	IV

○ その他参考事項

公立大学法人富山県立大学中期計画 数値指標に係る状況等

項目	目標値	期間等	R4年度評価実績 (2022)	(説明)	<参考>各年度の状況(単年度)					
			R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	備考	
<b>第1 教育に関する目標を達成するための措置</b>										
1 志願倍率(工学部)	5倍台	期間平均	4.0 倍	R3~R8年度の単純平均	4.4	3.5			学生募集係	
同上(看護学部)	3倍以上	期間平均	3.6 倍	R3~R8年度の単純平均	2.8	4.3			学生募集グループ	
2 入学者県内比率(工学部)	30%台後半	期間平均	45.2 %	R3~R8年度入学者総数のうち県内出身者の割合	45.1	45.3			学生募集係	
同上(看護学部)	60%以上	期間平均	64.5 %	R3~R8年度入学者総数のうち県内出身者の割合	58.7	70.2			学生募集グループ	
3 工学部卒業生の大学院(修士課程)進学率	40%程度	期間末まで	37.7 %	計画期間の最新年度(R4年度)の進学率	37.3	37.7			学生係	
4 地域協働科目実施教員割合	80%以上	期間末累計	80.6 %	計画期間の最新年度(R4年度)の割合	81.2	80.6			教務係	
5 学生満足度(アンケート) ※授業科目の内容をある程度理解できた学生の割合	80%以上	期間平均	84.7 %	R3~R8年度の単純平均(工学部・大学院)	85.8	83.6			教務係	
			89.7 %	R3~R8年度の単純平均(看護学部)	91.9	87.4			教務グループ	
6 就職内定率	100%	期間内(各年度)	99.0 %	計画期間の最新年度(R4年度)の内定率	98.9	99.0			学生係	
7 工学部県内企業就職率	50%以上	期間末まで	40.8 %	計画期間の最新年度(R4年度)の就職率	40.8	40.8			学生係	
看護学部県内就職率	60%以上	期間末まで	62.8 %	計画期間の最新年度(R4年度)の就職率	—	62.8			富山(教務学生課)	
<b>第2 研究に関する目標を達成するための措置</b>										
8 科学研究費補助金の採択件数(年間)	95件	期間平均	131 件	R3~R8年度の単純平均	130	131			情報研究係	
9 受託研究件数(年間)	35件	期間平均	35 件	R3~R8年度の単純平均	33	36			情報研究係	
10 共同研究件数(年間)	65件	期間平均	88 件	R3~R8年度の単純平均	87	89			情報研究係	
<b>第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置</b>										
11 社会人向けセミナー受講者数(年間)	130人	期間平均	137 人	R3~R8年度の単純平均	98	175			情報研究係	
12 公開講座受講者数(年間)	830人	期間平均	750 人	R3~R8年度の単純平均	521	978			情報研究係、教務グループ	
13 地域課題解決に向けた企業、NPOなどの連携団体数	140団体	期間末累計	104 団体	計画期間の最新年度(R4年度)末現在の累計団体数	87	104			教務係	
14 学生の海外体験者数	145人	期間末累計	1 人	計画期間の最新年度(R4年度)末現在の累積体験者数	0	1			学生係	
15 留学生の在学者数	30人以上	期間末まで	23 人	計画期間の最新年度(R4年度)末現在の留学生数	32	23			学生係	
16 学術交流協定締結数	20件	期間末累計	16 件	計画期間の最新年度(R4年度)末現在の協定締結数	15	16			学生係	